

## 春季オープン戦レポート1

7勝11敗1分。オープン戦の結果だけを見れば不安を覚える人もいるかもしれない。だが、今季から指揮を執る大倉孝一監督は「チームとしてやろうとしていることはみんな理解している。十分前に進んでいると思う」と手応えを掴んでいる。オープン戦ではあえて積極的に指示を出さず、選手を観察する場面が多く見られた。その狙いを「いろいろな選手を試さなきゃいけないのでどういう能力があるのか、どれぐらい理解しているのかということは見ている」と話す。

象徴的だったのは先月23日の慶大戦だ。序盤から打線が好調で4回までに7点をリードしたが、中盤以降投手陣が総崩れし、逆転負けを喫した。試合後のミーティングで監督は敗因について、選手達の工夫が足りないと言及。この場面では何が考えられるのか。それを阻止するためには何をしたらいいのか。間合いを変えたり、タイムを取ってバッテリーで話し合ったり、牽制にしてもどういう牽制を何回入れるのか。全員でもっともつと考えなければいけない。これは野球が浅すぎるということなんだよ」と話しかけた。

この反省を生かし、選手達はポジションの境を超えて、各々のプレーについて話し合う機会を増やした。そんな選手達の変化を監督も「細かいところに気づいてきたし、どんどん変わってきている」と認める。チームの完成度は「全部を理解していなかったり、テクニク的な精度が成長途中。7割かな」という。



### 2017年春季リーグ戦開幕号

